

【資料15】令和3年度 AIE国際高等学校 学校評価総括表

教育目標	高い問題意識と感性を有する若者を受けとめ、自国の文化・歴史に誇りを持ち、広く世界に関心の目を向けて社会の問題に気づき、それを解決しようと努力する熱意と能力を持つ使命感溢れる国際人を育成する。（学則第1条）		
目指す学校像	豊かな感性をもった若者が新しい自分を発見し、広く世界に貢献しようとする意欲と能力を開花させる学校。		
Learner Profile（目指す生徒像）		基本方針	
Knowledgeable－知性－ 広くバランスのとれた学問領域について理解と知識を深めようとする人 Harmonious－協調性－ 自分の意見を持ちながら、他者の意見も尊重し、協力し合いながら効果的にものごとに取り組める人 Risk-Taker－挑戦－ 困難や、不確実性に勇気をもって臨むことができる人、自分の信念を恐れずに明言し実践できる人 Balanced－バランス－ 体と心のバランスを重視し、肉体も人格の一部として大切にすること Sensible－感性－ 目に見えないものを感じ、それに価値をおき、理解することよりも、信じることに重きをおける人 Resilient－再起力－ 困難な状況の中でも、何らかの前向きな意味を見出す気質を持っている人 Caring & Humble－他者配慮－ 思いやりと謙虚さを持った人、他者の気持ちに共感し、慈悲の心を持つ人	①学び合う	教える者は学ぶ者。学ぶ者は教える者。この精神のもと、生徒と先生と一緒に校風を創ります。先生は師であるとともに、同じく人間として成長しようとする友です。	
	②コミュニケーション能力を育てる	コミュニケーションとは、“人と関わること”。相手の気持ち、メッセージを正しく受けとめ、また、自分の思いを分かりやすく表現し、対話を深めていく力を育てます。そのために、母国語を基盤とする“言葉の力”を大切にします。	
	③多面的にチャレンジする	色々な自分を発見するために、様々な分野にチャレンジします。スポーツ・音楽・絵画・ガーデニング・茶道・演劇・討論etc. 多彩な活動、イベントを通して新しい自分に会います。	
	④国際的志向を高める	グローバルな時代にあって、広く世界に関心の目を向け、“国際社会の一員になろうとする気持ち”を育てます。母国語をしっかりと理解しながら、異なる国との関わりを学ぶ能力を高めるのが目標です。	
	⑤悩む力・考える力・乗り越える力	“悩むべきことに悩む”のは能力です。その感性を大切にしながら、その問題から逃げずに考え続ける力、そして、それを乗り越えていく力を育てます。問題に気づき、解決していく、強くて柔軟な心の姿勢を育てます。	
	⑥基礎から始める	嵐が来ても根がしっかりとした木は倒れません。何事においても、しっかりした基盤があってはじめて応用力を発揮することができます。特に学習面においては、基礎からていねいに学ぶことを大切にします。	
前年度の課題と評価	生徒一人ひとりの「Learner Profile」育成を目指して、行事や授業などの学びの場で計画的・継続的・系統的に実践が行われている。あらゆる教育の機会を通して、全人格的な育成を目指す教育実践はAIE国際高校の特色であり、評価できる。 コロナ禍においても、リモートを適切に用い、海外の機関と英語で積極的に交流を図っている点は素晴らしい。3年ぶりに米国夏期短期留学も再開されることになり、ますますの国際交流が図られることを期待する。創立10周年を迎え、卒業生も多岐にわたり活躍する中、交流できる同窓会等があってもよいのではないかな。 保護者有志「Familyの会」では、機会を色々と考え、様々な活動が実施できたことはよかった。オンラインが様々な分野で機能的に活用されている。コロナ禍の中であったが、オンライン学習システムの導入による英語の自主学習の促進や、遠方の保護者との学期末面談などの充実した取組みがなされていた。感染対策をしながら、英語劇発表会と卒業記念の和太鼓演奏会を含む全ての学校行事が実施できたことは評価できる。		
		少人数クラス編成で一人ひとりに丁寧に対応されている。 コロナ感染による制限が徐々に解除される中で、対面による保護者間の情報共有や協力の機会も増えていくことを期待する。 感染拡大対策を重点的に行っていること、また、コロナ感染者が出た際、ガイドラインに沿って速やかに臨時休講措置を取るなどの対応がなされたことは学校の危機管理が整っていると判断できる。また、各コースの生徒を対象とした避難経路確認など、自然災害を想定した避難訓練にも継続的にとりくんでいただきたい。 約8万個のエコキャップを社会福祉協議会に提供した活動、海岸のゴミ回収活動を行ったことなど、地域貢献の取組みが行われている。 様々な学びの形があり、生徒数も年々増えている中においても、引き続き生徒個々に応じたきめ細やかな教育活動がなされるよう、適切な教職員と教室の確保をお願いしたい。	

少人数クラス編成で一人ひとりに丁寧に対応されている。
コロナ感染による制限が徐々に解除される中で、対面による保護者間の情報共有や協力の機会も増えていくことを期待する。
感染拡大対策を重点的に行っていること、また、コロナ感染者が出た際、ガイドラインに沿って速やかに臨時休講措置を取るなどの対応がなされたことは学校の危機管理が整っていると判断できる。また、各コースの生徒を対象とした避難経路確認など、自然災害を想定した避難訓練にも継続的にとりこんでいただきたい。
約8万個のエコキャップを社会福祉協議会に提供した活動、海岸のゴミ回収活動を行ったことなど、地域貢献の取組みが行われている。
様々な学びの形があり、生徒数も年々増えている中においても、引き続き生徒個々に応じたきめ細やかな教育活動がなされるよう、適切な教職員と教室の確保をお願いしたい。

	学校自己評価(令和 4 年 6 月 18 日実施)			学校関係者評価 (令和 4 年 7 月 2 日実施)
重点項目・目標	評価項目	評価		評価(結果・分析)及び意見等
		項目別	総合	
教育理念	理念の浸透	A	A	学期開始時のオリエンテーションでは、通学生全員で本校の目指す学習者像「Learner Profile」についての確認の時間を設けた。また、学校行事の機会では、「Learner Profile」の実践を意識して生徒は目標を立て、振り返りをするようにし浸透を図っている。 1月には新学生寮「レジデンスホール」をオープン。生徒たちが「一人で学ぶ、みんなで学ぶ」ことができるように、居室には集中して自学自習できるブース型デスクを設置、50畳のリビングでは生徒たちが集まれる空間をつくった。また、スタッフも常駐し、生活を通して学べるようにしている。 国際的志向については、コロナ禍で休止していた夏期体験留学を、米国・ワシントン州の提携校・セントマーチンズ大学で再開し、生徒にとって異文化体験の大きな機会となった。帰国後は、体験の言語化で国際志向を高めることを目的に、留学体験のプレゼンテーションを実施。今年も大使館インタビューの機会を得て、在都フランス総領事館表敬訪問やオンラインインタビューを行った。 保護者有志による「Familyの会」は、コロナ対策をしながらガーデニングを定期的に実施し、保護者の方々の交流の場となった。他校との交流においては、国際バカロレア校同士の交流の機会を持ち、年に複数回行われるIBワークショップやコーディネーターのネットワークミーティングにも積極的に参加している。
	理念の実践	A		
	国際性の涵養	A		
	学校コミュニティの発展	A		
教育活動	カリキュラムの充実	A	A	定期的に生徒の実力を測る試験を増やし、寮生・通学生の学力をより客観的に把握。それぞれの目標をどう達成するか進路指導に活用した。また、オンラインコースは週1日に加えて週3日コースを開講し、通常授業にオンラインで参加するハイブリッド型クラスも開始した。 課外活動については、感染対策をしながら、夏期体験留学、英語劇発表会など全ての学校行事を実施できるように工夫した。また、進路活動の一環として、通学生を対象に大学教授による模擬授業「環境問題のルーツ」(関西大学経済学部教授 新熊隆嘉先生)による講義を実施し、生徒たちにとっては大変知的刺激となる機会となった。 学期開始時に、適切な目標設定のためのワークシートを配布。必要に応じて個別面談を実施し、生徒が自身の課題発見と解決ができるように指導した。 進路指導においては、3年生は各生徒の進路希望状況を確認し、通学生は随時個別面談を行った。また、1～2年生にも面談等を実施した。 電話、メール、Classiを使い、保護者と密に連絡を取り合うことを心がけた。また、学期末面談をオンラインで行うことにより、遠方の保護者も参加しやすくなり、面談対象者のほぼ全員に学期末面談を実施した。
	課外活動の充実	A		
	個別サポートの充実	A		
	カウンセリングの充実	A		
	進路指導の充実	A		
	保護者との連携	A		
学校としての体制の確立	適切な教育課程の編成	A	A	知識の詰め込みではなく、思考を深める教育活動が積極的に行われている。オンラインコースも増設され、様々な形で学びを深める場を提供していく姿勢に好感が持てる。 課外活動については、所属コースに拘らず参加の機会が増えるよう引き続き希望する。オンラインの普及に伴い、ハイブリッド型クラスの実施、遠方の保護者との面談、登校しづらい生徒とのコミュニケーションが充実されたことは大きな成果であり、通信制高校ならではの特徴が強化された。 少人数クラス編成で、生徒個々に応じて適切な目標設定を行い、それに対するサポートに丁寧に取り組んでいると感じる。生徒全体の学力のより客観的把握を目的とした定期的な試験の実施、オンラインを活用したハイブリッド型クラスの開始など、進路指導においてきめの細かい取組みがなされている。 学期末面談のオンライン実施など、保護者との連携もよくなされている。親元を離れている生徒の保護者にとっては安心感につながる。 「Familyの会」のガーデニング活動は、生徒・卒業生も参加でき、さまざまな状況の生徒にとって、きっかけになり得るのではないかと期待する。
	適切な面接指導・添削指導等	A		
	適切な教職員の配置と組織運営	A		
	危機管理について	A		
	学校評価の実施	A		
	適切な情報提供と意見等の取り入れ	A		
	地域との連携	A		
	適切な施設及び設備の整備	A		

※達成度 A・・・ほぼ達成(8割以上) B・・・おおむね達成(6割以上) C・・・変化の兆し(4割以上) D・・・不十分(4割以下)